新島襄と『聯邦志略』

三　好　　彰

はじめに

新島襄が『聯邦志略』を読んだことは、ボストン到着直後に書いた「日本脱国の理由」[1]の下記の文に拠っている。

> A day my comrade lent me an atlas of United States of North America, which was written with China letter by some American minister. I read it many times, and I was wondered so much as my brain would melted out from my head, picking out President, Building, Free School, Poor House, House of Correction, and machine-working, etc.

「日本脱国の理由」を邦訳して採録している『新島襄自伝』（岩波文庫）[2]の訳では、次のようである。

> ある日、友人がアメリカ合衆国地図書（『聯邦志略』）を貸してくれた。それはあるアメリカの宣教師（E. C. ブリッジマン）が漢文で書いたもので、私はそれを何度も読んだ。その本で大統領の選出、授業料無料の公立学校や救貧院、少年更生施設、工場などを建てることを知って、脳みそが頭からとろけ出そうになるほど驚嘆した。

そして新島は後年（1885年8月29日）に書きあげた“My Younger Days”[3]では、上記の書き出し部は“one of them was a historical geography of the United States written by the Rev. Dr. Bridgman of the North China mission”であり、ブリッジマンの名前から『聯邦志略』のことだとより具体的に分か

る[4)]。

新島が箱館を経つ少し前からボストン到着直後まで書いた航海日記に『聯邦志略』[5)]の記事を書き写しているのが分かった。それを紹介するのが本稿の目的である。

1. 『聯邦志略』について

版心書名が『聯邦志略』であり、巻頭書名が『大美聯邦志畧』である。大美はアメリカを意味する美国に拠っている。なお畧、略は同字なので混乱を避けるために以降では畧でなく略を用いる。

裨治文（ブリッジマン）は上巻、下巻の2巻から成る『聯邦志略』を清朝の辛酉（西暦1861年）の猛夏（陰暦四月）に刊行したと序文で述べている。この猛夏は和暦では文久元年四月であり、西暦では1861年5月10日から6月7日までの29日間である。

序に「重刻」とあるように『聯邦志略』は、1838年に刊行された『美理合省国志略』、1846年に刊行された『亜美理合衆国志略』の改訂版である[6)]。

『聯邦志略』下巻にアメリカの34の州と、当時まだ州でなかった準州など8か所についてそれぞれの地域の地勢、風土が説かれている。34番目の州であるカンザス州が成立したのは1861年1月29日であるから裨治文はその直後に『聯邦志略』を完成させた。

箕作阮甫が『聯邦志略』に返り点を付し、一部の漢字にルビで読みを付けて翻刻した。江戸時代に洋学関係の書を出版する際には当局（蕃書調所）の検閲を受けねばならなかった。その記録である『開版見改元帳　二』を筆者は復刻した[7)]。『開版見改元帳　二』は安政5年から文久2年までの検閲の記録であるが、『聯邦志略』のことが2件出ている。

最初の申請は酉年（文久元年）十月十五日の日付があり、次のようである[8)]。

一　聯邦志略　　上下二冊

右私蔵板仕度奉伺候間此段草稿を以御奉伺候
以上

家持
万屋
兵四郎煩ニ付
代市太郎　印

文久元酉年
十月十五日

下ケ札
朱ニ而消候分都而相削其場所不明様送込板下
出來之上今一應為見改可差出事
但シ此本并原圖共相添差出可申候

出版元の万屋兵四郎の代理人が申請した。下げ札にあるように朱で示されているところを削って、それが分からないように送り込んで再提出するように求められている。

これを受けて十二月二日に再提出したのが下記である。なお今回は本人が申請したためであろうが姓が万屋から萬屋へと字体が変わっている。

酉十二月十五日改濟
戌四月十五日二冊納本
一　聯邦志略　上巻下巻　二冊
但原本添
但シ再應伺

家持
萬屋
兵四郎

酉十二月二日

この記事の「酉十二月十五日改濟」と「戌四月十五日二冊納本」は検閲者である蕃書調所の係官が朱で書いている。この記事から、十二月十五日に検閲を済ませ、翌年の四月十五日に上巻、下巻の二冊を著名な書肆・萬屋兵四郎が納本していた。よって日本で翻刻した『聯邦志略』の上巻と下巻は文久

2 年 4 月 15 日（西暦 1862 年 5 月 13 日）には刷り上がっていた。そして日本の図書館の書誌情報から、その後に増刷が繰り返され[9]、広く読まれたことが分かる。

2. 航海日記に書かれている『聯邦志略』の記事

新島遺品庫資料　上 0660「航海日記」[10]には新島が箱館を経つ元治元年 6 月 14 日の少し前からボストン到着直後までのことが書かれている。

元治元年 5 月 5 日の記事は図番 10660008 の左側の半丁にあり、表紙に続く図番 10660002 から図番 1066008 の右側版丁までは日毎の記事ではないことが書かれている。

落書きのようなのもあるためだろうが、この「航海日記」を新島公義が写本した『箱楯よりの略記』[11]では、図番図番 10660002 から 10660007 までは省かれている。

各図番について『聯邦志略』との対応関係を述べる。

2.1　イザベラ女王とコロンブス

図 1 に図番 1066003 の右半丁を示す。

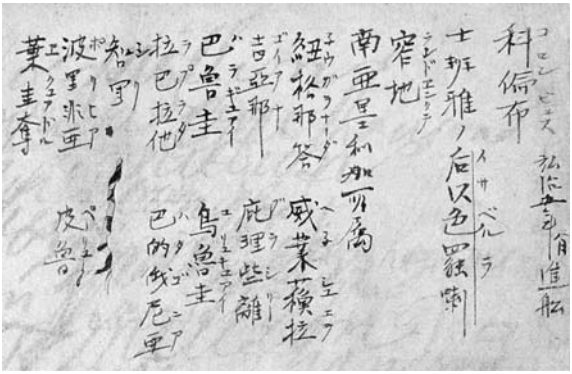

図 1　図番 1066003 の右半丁

図 1 の最初に「弘治五年八月進舩」と書かれている。弘治は中国明代の元号であり、弘治 5 年は西暦 1492 年に当る（日本にも室町時代に弘治という元号があったが、『聯邦志略』は中国で刊行された本である）。続いて科倫布、士班雅ノ后以色罷喇と書かれている。

図 2 に箕作阮甫が翻刻した『聯邦志略』上巻の覓地原由の項の第二丁の表側を掲げる。図 2 の 8 行目から 9 行目にかけて「大船一、小船二、三船共百二十人於弘治五年八月初旬啟行」と書かれている。この要点を「弘治五年八月進舩」と書いたわけである。

「科倫布」に「コロンビュス」とルビが振られている。これは図 2 の 6 行目行頭の通りである。言うまでもないが中国で出版された『聯邦志略』には、このようなルビは書かれていない。つまり新島が読んだのは箕作阮甫が翻刻した『聯邦志略』である。以降で述べる『聯邦志略』は箕作阮甫が翻刻した『聯邦志略』のことである。

「士班雅ノ后以色罷喇」に対応するのは図 2 の 7 行目から 8 行目にかけての「士班雅君后、延八年、后以色罷喇」である。図 2 では「士班雅」に「エスパニア」というルビが振られているが、これに対する図 1 でルビを省いている。新島は「士班雅」が読めたようだ。次の「以色罷喇」には「イザベラ」とルビを付けている。

これらのことから西暦 1492 年にイザベラ女王がコロンブスを新大陸発見の旅に出させた故事が思い浮かぶ。

從無人知之矣迨後明朝年間普魯西國有精於天文
歌白尼者暗想地形如球則東西兩方之間不應別無
土地然只具論而已至弘治五年有欲窮究此理者乘
舟西行往尋新地旁觀者固笑其愚即同舟者亦云無
爲乃西行極遠竟覓新地而歸斯往尋地者以大利人
科倫布也（以上音前今地理圖便知）初請國主求發船往國主不允
復請於葡萄牙王亦不允後頻懇士班雅君后延至八
年后以色罷喇始允諾給以大船一小船二三船共百
二十人於弘治五年八月初旬啟行行經二十一日不
見堤岸水手輩恐有絶糧之憂欲拋船主於洋自行返
聯邦志略　上卷　覓地原由　二

図 2　箕作阮甫が翻刻した『聯邦志略』上巻
覓地原由　第二丁表側

2.2　南アメリカ諸国

図 1 では、次に「窄地」と書かれているが、窄地は『聯邦志略』上巻の疆域度數の項の第 5 丁裏の 1 行目に出ている。そのルビ「ランドエングテ」はオランダ語 Landengte に拠っている。

『聯邦志略』として翻刻した箕作阮甫は蘭学者であった。オランダ語に長けていた新島は、窄地（ランドエングテ）が Landengte だと分かったであろう。

「窄地」に続いて「南亜墨利加所属」とあって紐格那答（ネウガラナーダ）から葉圭奪（エクュアドル）までの南アメリカの 12 か国の名前が書かれていることから、「窄地」はパナマ地峡である。

これらの 12 か国の名前も疆域度數の項の第 5 丁裏に書かれており、そのルビも新島は書き写している。下記の 12 か国であるが、読みやすさのためにルビは（ ）内に記す。

> 紐格那答（ネウガラナーダ）、威業蘇拉（ヘネシュエラ）、吉亜那（ゴイアナ）、庇理些離（ヴラシリー）、巴魯圭（パラギュアイ）、烏魯圭（ユリュギュアイ）、拉巴拉他（ラプラタ）、巴的俄尼亜（パタゴニア）、知里（シリ）、波利非亞（ボリヒア）、皮魯（ペーリュー）、葉圭奪（エクュアドル）

ルビはオランダ語に拠っているので現代人にはやや分かりにくいが新島には問題無かったことだろう。

2.3　アメリカ合衆国の山脈

図 3 に「北米利堅山川平地」と書かれている図番 10660003 の左半丁を掲げる。図 3 の最初に「山ノ至大ナル者二」とあるが、これは『聯邦志略』上巻の山川平地の項の最初の行から次の行にかけての「山之大者二」を読み下したものである。

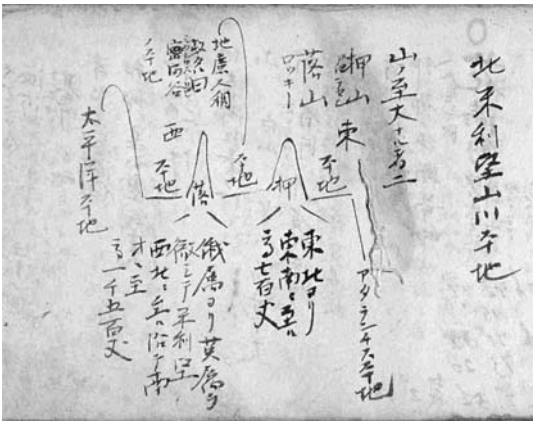

図 3　北米利堅山川平地（図番 **10660003** の左半丁）

図 3 の中央部に次のような図が描かれている。

右端の平地に「アタランチス平地」と書かれている。その左隣に「押」とあり、それに「東北ヨリ東南ニ至ル高七百丈」とあるのは、『聯邦志略』上巻の山川平地の項に出ている「東北止於東南高七百丈」を読み下したものである。

「押」は「山ノ至大ナル者二」の左隣に書かれた「押山」を指しているが、『聯邦志略』では「押山」の左側に「アレガニーゲベルグテ」、右側に「アパラセン」とルビが振られている。「アレガニーゲベルグテ」はオランダ語の Appalachen gebergte のことであり、「アパラセン」は英語 Appalachian のことである。

新島は図 3 で示すように「押山」に「アパラセン」という英語をカナにしたルビを振っているが、オランダ語のルビ「アレガニーゲベルグテ」は書いていない。アメリカに行ける目途が立ったのでもはやオランダ語は書くまで

も無いと考えてのことだろう。

中央の「平地」に「地廣人稠名クハ曰密河谷ノ平地」と書いてあるのは、『聯邦志略』上巻の山川平地の項の「地廣人稠望之如畫名曰密河谷之平地」に拠っており、密河谷に「ミウシッスシッピ」とルビを振っているのはミシシッピのことである。

この左隣の「落」は「落山」のことである。『聯邦志略』上巻の山川平地の項では「落山」の右側に「ロツツゲベルグテ」、左側に「ロッキー」とルビが振られている。「ロツツゲベルグテ」はオランダ語 Rotsge bergte であり、「ロッキー」は英語 Rocky mountain range のことである。図 3 によると新島はオランダ語に拠った「ロツツゲベルグテ」は書いておらず、英語の「ロッキー」だけを書いている。これもアメリカに行ける目途が立っていたからだと考えられる。もはやオランダ語は不要だった。

「落」の下に「俄属ヨリ英属ヲ徹シテ米利堅西北ニ至　高一千五百丈」とあるが、これは『聯邦志略』上巻の山川平地の項の「俄國属地直穿英国属地地下聯邦西北沿及南方北於墨是科國高一千五百丈」に拠っている。

「落」の左の平地に「太平洋平地」と書かれている。これは『聯邦志略』上巻の山川平地の項に同じ表現で出ている。

ということから、図 3 は『聯邦志略』上巻の山川平地の項の要点を抜き書きしたことが分かる。

2.4　ニューイングランドの 5 州について

図番 10660004 と図番 10660005 にアメリカの 5 つの州の名前が書かれている。図 4 に示す図番 10660004 に緬邦（メイン）、牛含布什爾（ネウヘムプサイレ）、花満的（ヘルモント）、馬洩朱些斯（マスサシュセツス）の 4 つの州、そして図番 10660005 に洛哀倫（ロードアイレンド）が書かれている。新島が書いている各州の漢字と（）内に示したルビは『聯邦志略』下巻の通りである。（　）内はルビで示した読みはオランダ語に拠っているので現代人にはわかりにくいが、それぞれメイン州、ニューハンプシャー州、バーモント州、マサチューセッツ州、ロードアイランド州のことである。

図 4　図番 10660004 に書かれているアメリカの州

花満的、馬洩朱些斯と洛哀倫には算用数字が書かれている。1 例として新島が長年住むことになった馬洩朱些斯を取り上げると次のようである。

nb 41°15’
　43　52
l　69°54
　7234
東偏凡長　1°37
寛処　3°40

これは『聯邦志略』が馬邦（馬洩朱些斯（マスサシュセツス）の略称）の南端と北端の緯度、東端と西端の経度を次のように漢数字で書いているのを新島が算用数字に直したものである。

馬邦　按経緯度　邦南自四十一度十五分起、至四十二度五十二分止、東偏凡長一度
三十七分東自六十九度五十四分起至西七十三度三十四分止極寛処凡三度四十分

新島は算用数字で書いているので、洋学を学んでから『聯邦志略』を読んだことを示している。

ここで緯度を略号 nb で書いている。これはオランダ語 noorder breedte の略である。日本語では北緯である。ちなみに英語なら north latitude である。

経度を l と書いているが、これはオランダ語 lengtegraad の略である。英語では longitude である。略号にすればオランダ語でも英語でも l であるが、上記の nb との関係で、この l はオランダ語 lengtegraad の略である。

これを書いた時点では新島は経度、緯度に関しては英語よりオランダ語が親しみやすかったのが分かる。そして新島がオランダに長けていたことを示す好例でもある。

図 4 の馬洩朱些斯に、「地ノ大浙江五分ノ一」、「邦都ノ名曰波士頓」などとあるのは『聯邦志略』の「地之寛廣當大浙江五分一」、「邦都之名曰波士頓」に拠っている。

2.5　新島は『聯邦志略』を箱館で読んだ

『聯邦志略』は 34 の州と、当時まだ州になっていなかったところ 8 か所を論じているが、新島は、この 5 州しか取り上げていない。この 5 州にコネチカット州を加えるとニューイングランド 6 州となる。このことから新島はニューイングランドに行ける目途がたった時点で『聯邦志略』を読んだと考えられる。

なお『聯邦志略』は著者の宣教師（Elijah Coleman Bridgman）のことを、上巻の書き出しのところで次のように書いている。

馬邦　畢禮遮邑裨治文撰

これで新島はブリッジマン（裨治文）がマサチューセッツ州の人だと知った。それでマサチューセッツ州に行こうとしたと考えられる。当時箱館（現在の函館）からアメリカに早く着くなら西部を目指すが、新島は喜望峰を回って東部に行くことを望んでいた[12)]。そして、その目途が付いた時点でニューイングランド 5 州を『聯邦志略』下巻で学んだと考えられる。

なお新島が書いているニューイングランドの 5 州で、『聯邦志略』が教育についての記事を書いているのは馬邦、つまりマサチューセッツ州だけである。

3.「脱国の理由」と『聯邦志略』

冒頭で述べたように新島は『聯邦志略』で知ったアメリカの下記のことに強く惹かれたと「脱国の理由」に書いている。

> picking out President, Building, Free School, Poor House, House of Correction, and machine-working

これらを『聯邦志略』の記載内容で考察する。

(a) Picking out President

『聯邦志略』の「建国立政」の項にプレジデント President の役目と選出法が次のように書かれている。

> 凡行法権柄総帰国君主持位分正副率四年、是二君者概由各邦会中公挙其選挙之制
> (大意試訳：行政権は正副大統領にある。正副大統領は 4 年毎に公選される)

国主に「プレジデント」とルビが振られている。新島はプレジデントが公選で選ばれることに注目している。江戸幕府の将軍（公方）は一般人の知らないところで世襲されたのだから、この違いに驚いたわけである。

(b) Building

「建国立政」の項の「建国」こそが Building[13]である。「建国立政」の項でイギリス王の政策に反発し戦争の末に独立したことが述べられている。君主の司るイギリスと違って、プレジデントと人民は同権であること、主権在民などが国是であると述べている。

幕末にイギリスに密航した伊藤博文などの長州藩[14]や森有礼などの薩摩

藩[15]の人々が居た。新島は君主の居るイギリスでなくプレジデントが人民と同権であるアメリカを目指したと考えられる。

（c）Free School

「義挙述略」の項に「義学之会如貧家幼孩有不能延師従学者則損金設学以教之（大意試訳：貧しくて学べない子供たちのために義学の会があり先生が自腹を切って教える。）」とあることに拠っている。「義学の会」が英語 free school に相当することを新島はボストン到着直後に読んだロビンソン・クルーソーの本[16), 17)]に出ている下記の文で知ったと考えられる（下線は筆者による）。

> my father, who was very ancient, had given me a competent share of learning, as far as house-education and a country free-school generally go, and designed me for the law ;

このようにアメリカには「義学の会」（英訳すると Free school）があると新島は『聯邦志略』で知った。アメリカに行けば授業料を払わなくても教育が受けられると考えての脱国だった。

（d）Poor House

「義挙述略」の項の「恤貧之会、如貧民之作工者積金若干慮不敷用、則入銀於本会（大意試訳：貧しい人のための基金を集める恤貧の会がある。同会に頼らなくてもよい人は出資するがよい。）」に拠ったと考えられる。この英語表現 poor house をボストンへ向かう洋上で読んだ小説 *Finger Posts on the Way of Life*[16), 18)]に出ている下記の文で知ったと考えられる（下線は筆者による）。

> She was going to send me to the poorhouse when Mr. Maxell took me in.

（e）House of Correction

「義挙述略」の項の「化罪之会凡監中之犯人居処飲食鮮有潔者民則会為之建屋俾各一房給以衣食課以工作不令出本屋之外、時以善言論之往往出者皆感而為善云（大意試訳：入獄中の人に衣食住の世話をし、仕事を覚えさせる化罪の会がある。更生することに感銘を受ける。）」に拠っている。

（f）machine-working

「百工技芸」の項に書かれているアメリカの誇る多くの農工業技術を新島は意図している。なお新島はボストン到着直後に火事の現場に遭遇した。それを新島遺品庫資料　上 0666 の図番 10660030 で、「火消の仕方国風とは大に相違えり格別人力を用ひず蒸気機関にて水を引き数多のゴム制の水筒にて打揚げ半時程の間に甚強き屋上の火勢消沈めり、嗚呼西人機械製造の功茲に於て見えし候」と書いており、アメリカの技術の高さを感動的に述べている。このことも頭にあったことだろう。

4. 新島が『聯邦志略』を読んだ時期

新島は「脱国の理由」でアメリカの良さを知ったことを上記のように述べ、その後でオランダ語を学び始めたと書いている。その頃は英語を学ぶ機会が無かったと続けている。

ところが新島が後年書いた“My Younger Days”では、オランダ語を学び始めてから『聯邦志略』を読んだと書いており、「脱国の理由」と順序が異なっている。

「脱国の理由」はハーディー氏にアメリカに来た理由を分かってもらい易いように意図的にアメリカの話を前に持ってきたと考えられる。

上述したように航海日記の『聯邦志略』から引用した記事では、同書が漢数字を使っているところを算用数字にし、また略号にオランダ語を使っていることから、オランダ語を学んでから『聯邦志略』を読んだのがはっきりと分かる。

後年（1885 年 8 月 29 日）に書いた“My Younger Days”では、種明かし

をするようにオランダ語を学び始めてから『聯邦志略』を読んだと正したわけである。

新島は箱館を経った元治元年 6 月 14 日の前から航海日記を書き始めている。そして日記の記事が始まる前に、アメリカの各州のことが書かれている『聯邦志略』下巻からニューイングランドの 5 州しか取り上げていない。このことからマサチューセッツ州に行ける目途が立ってから『聯邦志略』下巻の関係部を読んだと考えられる。

新島が「脱国の理由」に挙げているアメリカの良さを『聯邦志略』の上巻の記述で確認した。日本には無くアメリカの持つ良さとして挙げている諸点は航海日記に書かれていないので、『聯邦志略』上巻は箱館に来る前に読んでいたかもしれない。今後の検討課題とする。

むすび

航海日記に箕作阮甫が翻刻した『聯邦志略』から引用した記事が書かれていることから、新島が実際に『聯邦志略』を読んでいたことが明かになった。

「脱国の理由」で新島が取り上げたアメリカの利点が『聯邦志略』の記事に拠っていることが確認できた。

ところで『聯邦志略』の下巻の六丁裏に馬邦（マサチューセッツ州）のこととして「以董邑中諸政另択地保數人、以襄官事（大意試訳：郡村部は数人の人を選んで官の仕事を支援させる）」と書かれており「襄」の字が出ていることを参考までに記す。

擱筆に当り、図 1、図 3、図 4 の使用を許可いただいた同志社社史資料センターに諸意を表する。

参考文献と注

1）Arthur Sherburne Hardy ed., *Life and Letters of Joseph Hardy Neesima,* 1891, pp.3-4
2）同志社編「日本脱出の理由：『新島襄自伝』（岩波文庫、2013）、pp.17-18
3）“*My Younger Days,* Kyoto Japan, August 29, 1885”, 『新島襄全集 7　英文資料編』

（同朋舎、1996）、p.20

4）この文を翻訳した「私の若き日々」『新島襄自伝』（岩波文庫、2013、p.53）による邦訳を下記に示す。

　その中の一冊が、中国北部伝道に携わった牧師（アメリカン・ボード宣教師）ブリッジマン博士が書いたアメリカ合衆国の歴史地理の本（『聯邦志略』）であった。

5）裨治文　撰；箕作阮甫　訓点『聯邦志略』、竪川三之橋（東都）：老皀館，文久 2 年（1862）

本書の上巻はアメリカ合衆国の歴史、風土の概要が説かれており、下巻は各州編である。

6）坂本恵子「『聯邦志略』を読む」『新島研究』第 110 号（同志社社史資料センター、2019）、pp.120-143

7）三好彰「翻刻『開版見改元帳　二』」『洋学史研究』第 35 号（洋学史研究会、2018），pp.65-107

『開版見改元帳　二』の原書は東京都立中央図書館特別文庫蔵

8）上記 6）の p.127 で文久元年十月十五日の記事を引用しているが、初版が文久 2 年 4 月に出たことを記した十二月二日付の再申請分を引用していない。

9）上記 6）の pp.127-128

10）新島遺品庫資料　上 0660　航海日記（元治元年 5 月 5 日～慶応元年 10 月）

11）新島襄（新島公義写）『箱館よりの略記』、新島遺品庫目録番号　上 0663

12）上記 11）の書き出し部に「彼の国之学問修行いたしたく、且つ地球を一周せんとの志願」とある。

13）「日本脱出の理由」では building を訳していないが英語 build に国を作るの意味がある。

14）宮地ゆう、『密航留学生「長州ファイブ」を追って』（萩ものがたりシリーズ vol.6）2005

15）三好彰「英国の新聞に見る薩摩藩留学生」『英学史研究』第 48 号（日本英学史学会、2015）、pp.74-84

16）三好彰「新島七五三太の英語の語彙」『新島研究』第 112 号（同志社社史資料センター、2021）、pp.3-26

筆者は本稿で新島がボストン到着直後に買ったロビンソン・クルーソーの本は下記 17）であり、洋上で読んだと新島が『航海日記』に書き残している finger post の本は下記 18）であることを明かにした。

17）*Life and Adventures of Robinson Crusoe, of York, Mariner, with an Account of his*

Travels round Three Parts of the Globe, written by Himself ; with New Designs on Wood by Anderson, Boston : Crosy and Nichols, 1864

18) Timothy Shay Arthur, *FINGER POSTS ON THE WAY OF LIFE,* Boston : Philadelphia, 1853
新島がボストンへ向かう洋上で読んだ小説である。